

# 令和六年四月 普賢光明

華嚴宗 普賢光明寺

今月の法話

- 一、全ての人々には平等に仏性がある。ゆえにそれに氣付けばこの世の成仏となる
- 二、日本の大黒天信仰

※令和六年五月より鎌倉本堂にて行われる勉強会の開始時間が正午に変更されます。(横須賀、小田原の勉強会においては変更なく午後二時からとなります)

一、全ての人々には平等に仏性がある。ゆえにそれに氣付けばこの世の成仏となる

誰もが持ち合わせている「本持仏性」これは仏教信徒のみならず全ての人々を表します。仏性とは、慈悲、思いやり、優しさ、安らぎ、敬愛の種子です。この世混沌とするなか私達は生きて行かなければなりません。「大災害、疫病、戦争テロ、独裁、暴力」その中にいる私達は日々が修行なのです。そして、この世は天国にも地獄にもなります。過去、現在、未来は私達にとって因縁(縁起)の世界です。また前世や先祖の因縁も影響して私達は迷い苦しみ、救いと安穩を求めています。この世の成仏とは、それを満たすもの「悟り」です。その種子は全ての人が、持ち合わせているのです。「仏性」

話は変わりますが、皆さんのなかで子供の頃、若い頃、現在に「いじめ、不幸、災害」など何らかのトラブルを大小関わらず体験していると思います。その中で悩み、苦しみ、救いを求めたり、逆に逆恨みしたり他人に責任転換したり逆上したりします。その中で辛すぎると精神を病み、時として耐えきれずに犯罪や自殺をしてしまう者もいます。

しかし、善行を積み、苦しみを乗り越えた人は慈悲深い人、社会に貢献している人、出世している人が多く、悪行をしてきた人はあまり良い人生を送っていません。(業報輪廻) また、自分では善行と思っても他の者からは妬みや恨みを買ってしまうこともあります。実に複雑な世界です。しかし、この世界でも成仏できると、お釈迦様は説きます。それは法華経の中にある『提婆達多品第十二』の中にあります。

(一)「全ての悪人の成仏」地獄の底に沈み苦しむ悪人たちが救済され成仏する

(二)「女人成仏」女人の身体は穢れているとされ仏道を成ずる器ではないとされてきた。実際には私達は女人より生まれるのですが出産は、穢れているのでなくその際に血液が付着することを穢れとした。また、修行中の者に近付くと修行の妨げになったり、迷いが生じると言われる。(女人禁制) 仏教では在家者の同性愛への禁止はない。キリスト教カトリックでは禁止。

また、提婆達多品では竜女を女子に例えて成仏法を説く。(インドでは女子の位が低く現在でも社会問題となっている) この二つの成仏を説く教えは罪深い私達にとっても重要であり仏教の魅力の一つでもある。提婆達多はお釈迦様の従兄弟であり、仏陀の次に優れた修行者でもあった。お釈迦様に対して嫉妬心と悪心を持ち、一時は暗殺計画を実行して失敗する。仏教では悪人の代名詞にもなっている。しかし、それらの災難に会いながらもお釈迦様は慈悲を持って提婆達多に接して成仏させたという。

私達は何のために生まれて来たのか? それはこの人間界で差別と苦しみを失くし平等の幸せと救済を目指してこの世の極楽を実現するためです。しかしながらそれは終わりのない物語のようで人々の欲望や悪心、邪心は尽きることなく常に人間は自身で世界の危機を作り苦しむのです。全く愚かなことです。ゆえに人は善と悪の心を持ちながら天国と地獄を失くし造り出すのです。皆の心一つにして平和の祈り救済の行動を取り、この世の大きな力となり成仏に近づくのです。本当に愚かな私達を正しい道に導いてくれる唯一の教え仏教はまさに光明そのものです。ご精進くださいませ。

## 二、日本の大黒天信仰

大黒天について今まで何度もお話してきましたが、主に武神としての大黒天を取り上げてまいりました。しかし、私達が日々拝しているふくよかでやさしい大黒様のお姿はどこから来たのか。日本における大黒天信仰がいかに形作られてきたのかを詳しく探りたいと思います。

大黒天の元のお姿を辿ればインドの神である破壊と再生を司るシヴァ神に行き着きます。シヴァ神が仏教に取り込まれると天部の神として扱われます。それが大黒天、大自在天、伊舎那天です。大黒天はインドでは「マハーカーラ」と言い、「マハー(摩訶)」は「偉大な、大いなる」という意味。「カーラ(伽羅)」は「黒暗」を示し合わせて『大日経疏』にて「大黒」と名付けられた。シヴァ神の夜の姿であり、黒暗の神、「死の支配者」なのです。『孔雀王呪経』でも鬼神として登場し、死神ゆえに不死の妙薬や金銀財宝を持ち、人の血肉と引き換えにそれらを分け与える夜の王として君臨します。その神通力は凄まじく、大日如来が大黒天の姿を借りて悪逆の荼枳尼

天を調伏したことも。このような大黒天の姿は主に密教の中で説かれ、摩訶伽羅天まかきゃらてんとして信仰されました。日本でも恐ろしい怨霊を神として祀るように災難を逃れ、福を得ようとする信仰が生まれたのです。疫病についても同じで、疫病を広める悪鬼を祀ることでその難から逃れんとするわけです。

しかし、このような摩訶伽羅天がどういふ経緯をたどれば私達のよく知る大黒様になるのか首をひねる方も多いのではないのでしょうか？そこには決定的な分岐点があったのです。日本において現存する最古の大黒天は滋賀県にある金剛輪寺明寿院にあります。この大黒天は半跏坐にて右手に金囊、左手に矛を持つ神将のような甲冑姿であり先述の悪伸の如き姿とは程遠い。まず、日本に大黒天を持ち帰ったのは伝教大師最澄で、比叡山の道場の厨房に三面六臂の大黒天を祀ったのが初めと言われます。(ただし毘沙門天、弁財天の三面大黒は後世になってから)

この「厨房」というのが肝心で、これは中国の義浄という僧侶が南インドを旅した際に著した『南海寄帰内法伝』を元にした祀り方であり、その姿も一致します。つまり、インドにおいて北へ流れた姿が摩訶伽羅天、南へ流れた姿が大黒天なのです。それが中国で合流して様々な性格を併せ持つ複雑な神になり、日本へと伝来したのです。そして、日本に伝来した後もその姿を徐々に変化させていきます。先述のような甲冑姿が形を潜め、平安

の中頃には日本的な奈良時代の貴族が着るような狩衣かりぎぬを着るようになったのです。これには大黒天と大国主神の習合が関わっています。御存知の通り、大黒天と大国主神は名前もご利益も似通っていることから習合され、一体となった経緯があります。『塵塚物語』では弘法大師が「大国の文字を改めて大黒と書きたまひける」とも。

そして、現在のような大黒さまの原型と言われるのが鎌倉時代の作である東大寺法華堂手水屋の大黒天です。この大黒様は狩衣に腰に紐で縛った袴、左手に大きな袋を持ち、右手は拳印を結び蓮台の上に立ちます。ここから鎌倉時代を経て右手に小槌を、足元には米俵を配置するようになり、室町時代になると七福神信仰から福耳や満面の笑顔で描かれるようになるのです。

なぜ小槌を持つようになったのかは、いくつか説があります。武神であることから武器として持っているという説がありますが、これは誤り。武器ではなく初めから「打ち出の小槌」として持たれているのです。打ち出の小槌は『御伽草子』の一寸法師にもみられますが、他にも『平家物語』など多様な文献に出てきます。元をたどると中国、モンゴル、インドにまで遡る歴史の古い神器です。また、大黒様の小槌には摩尼宝珠が描かれており、これは摩尼宝珠を表しており、願いを叶える不思議な道具であることを示しているのです。

また、大黒様には七代にわたって福を授けるといふご利益があり、子孫繁栄のご利益もあります。これには大国主神の逸話も関わっており、出雲大社が縁結びの神社として知られるように大国主神は須勢理毘売命を初めてして多くの女性と関係を持った神として知られます。また、東大寺の大黒さまの拳印、これは実は女握りなのです。他にも大黒様の姿が男根のようにみえることや、お供え物として女性を表す二股の大根をお供えする風習もあります。もともとのシヴァ神もリング信仰として知られ、男根や男女和合の神として祀られています。これは偶然の一致ですが面白いですね。

一方で武神としての側面も忘れられたわけではありません。密教寺院や、戦国武将の間では強く信仰されたのです。『仁王経』では戦闘神として描かれ、その信仰を強く持ったことで有名なのが徳川家康です。家康は夢で大黒天を見たことから、これは吉夢だと思ひ奈良の鍛冶師に大黒様の頭巾を模した兜を作らせたのです。この大黒頭巾形兜を被って小牧・長久手の戦いに臨み、秀吉に打ち勝ったとされます。このことからこの甲冑を江戸城にて飾り、江戸幕府が続く間、毎年詣でるといふ儀礼が生まれたほどです。

このように大黒さまは日本に來られて以来、多種多様な人々によって信仰され、現在に至っては福の神の代表として強く私達の心に根付いています。祈りを捧げ、心をもっとすることにより一層のご利益に浴することができまので、ぜひお手を合わせてくださいませ。合掌

## 南無日月光妙法蓮華經

七福神最高神 大黒天利益(財宝、五穀豊穰、商売繁昌、開運、子宝、悪鬼邪氣払い、疫病退散)が授かる大黒天授祭を五月十九日(日)に厳修いたします。神の中では荒神ですがニコニコと笑いながら、懐の深さは唯一無二です。この縁起を是非にお受け取りくださいませ。(詳細は別紙にてご確認ください)

\*四月のラッキーカーラー、暗剣殺、五黄殺(四月五日〜五月五日) 一年通してのラッキーカーラーは白色です。  
\*暗剣殺、五黄殺とは凶方位の事で移転増築や旅行など控えた方が良く方位となります。

四月のラッキーカーラー 空色 白 黄 暗剣殺 東 五黄殺 西

【お知らせ】

- ①五月の勉強会の日程 普賢光明寺・五月四日(土) 五日(日) 七日(火) 正午より。鎌倉本堂にて合同会となります。
- ②仏像彫刻教室・四月十四日(日) 五月十二日(日) 正午より。
- ③令和六年度の年会費と会員証の更新は四月となります。よろしくお願いたします。
- ④妙光修験のご案内：滝行・四月十四日(日) 五月十二日(日) 五月二十六日(日) 塩川滝 集合午前七時 四月二十八日(日) 夕日の滝 集合午前七時 各駐車場にて集合 事前に同意書をご提出ください。また体験をご希望の方はご相談ください。

合掌